

trivia ■ 皮膚科のトリビア ■ (149)

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで聞きししたことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

アトピー性皮膚炎を経皮と経口の悪化因子で分類した

第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会から(平成28年11月6日)

成人アトピー性皮膚炎患者を経皮悪化因子(金属・市販品などによる皮膚炎の増悪)の有無、経口悪化因子(食物摂取後の口腔症状の出現や痒みの増悪)の有無で4群に分類するという試み。質問票による集計で、いずれも7割の患者が悪化因子ありと回答した。群間の比較では経皮悪化因子あり＋経口悪化因子なしのグループで、血清中IgE値が低かった。また、経口悪化因子で痒みの増強があるサブグループで、カンジダに対する特異的IgEが高い傾向がみられた。「経皮あり、経口なしはいわゆる内因性アトピー性皮膚炎か。経口悪化因子があって皮膚の痒みが増強する群にカンジダ特異的IgEの陽性が多いというのは、ちょっと意外に思うが、どういう理由か興味がある」。

パンケーキ症候群ってなんだ？

第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会から(平成28年11月6日)

保管が不良でダニが繁殖してしまった小麦粉やミックス粉などを用いたお好み焼きなどの摂食後に生じる即時型アレルギーを、パンケーキ症候群と呼ぶことになった。国外の症例が、2009年にpancake syndrome (oral mite anaphylaxis)として報告されて

いる。

「いつのまにかそういう疾患名になっていた。日本ではパンケーキというよりはお好み焼きやたこ焼きで生じているというイメージが強い。消化器症状や呼吸器症状などの全身症状を伴うのでよいのかもしれないが、症候群と呼ぶのも若干違和感がある」。

水蕁麻疹の診断法

第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会から(平成28年11月6日)

30歳代の女性、屋外のプール、温泉に入ると、水に浸かったところだけに膨疹が出現するようになった。膨疹は水からあがって30分で自然消褪する。花粉症やアトピー性皮膚炎はなし。寒冷刺激(アイスキューブ)では誘発できず、常温の生食水、水道水の貼付で膨疹出現。10分間の上腕水浴試験では、20℃で膨疹と痒み、41℃で痒みが誘発され、水蕁麻疹と診断した。

「30年近く皮膚科医をしているが、水蕁麻疹と診断した例はまだない。おそらくあったのだと思うが、温熱蕁麻疹や寒冷蕁麻疹と診断していると思う。ほかの物理性蕁麻疹を否定するのが難しそうなので、アプローチの方法は参考になった」。

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにもある場所」, そこから転じて「瑣末なこと」となり, 今では雑学的知識, 豆知識, などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥

Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ヶ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス:

<http://www.asai-hifuka.com>

G-CSF製剤による薬剤性血管炎

第46回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会から(平成28年11月6日)

多発性骨髄腫の化学療法に続発した好中球減少症に対して使用したレノグラスチム(ノイトロジン)投与12日目から, 顔面に丘疹が生じた。その後四肢にも同様の病変が出現し, 8mm大までの充実性で硬く触れる結節となり, 一部は潰瘍を形成した。病理組織学的に真皮の浅層から中層にかけて密な好中球浸潤があり, 血管壁のフィブリノイド変性を伴った。レノグラスチムの中止で個疹は扁平化して治癒した。

「造血幹細胞を末梢血中に動員し, 好中球を増殖させるといふ薬理作用なので当然かもしれないが, 血管炎, 好中球性紅斑は副作用として添付文書に記載されている。臨床的には持続性隆起性紅斑に近いと思ったが, 治癒後の癬痕形成は目立たなかったようだ」。

血栓症を疑ったときに施行する検査

第22回横浜デルマカンファレンスから(平成28年11月17日)

凝固活性化のマーカーは以下の通り。1) トロンビン-アンチトロンビン複合体(TAT): 凝固活性化の結果として最終的に産生されるトロンビンの産生量を反映するマーカー。トロンビンとその代表的な阻止

因子であるアンチトロンビン(AT)が1:1で結合したもの。2) プロトロンビンフラグメント1+2(F1+2): プロトロンビンからトロンビンに転換する際に, プロトロンビンから遊離するペプチド。TATよりもartifactが出にくい。ワルファリンの効果判定に用いることができる。3) 可溶性フィブリン(SF): フィブリノゲンからフィブリンに転換する過程で形成される中間産物。新規経口抗凝固薬(NOAC)の効果判定マーカーとして期待されている。4) Dダイマー(DD): 血栓(安定化フィブリン)が形成されて, それが溶解するとDDが血中に出現する。したがって, DDの高値は血栓がすでに形成され, かつ溶解したということの意味する。上記の検査に比べartifactがまったく出ない。線溶活性化のマーカーは以下の通り。5) プラスミン- α 2プラスミンインヒビター複合体(PIC): 線溶活性化に伴い産生される最終的な酵素であるプラスミンが α 2PIと結合して生じる。PICの測定によってDICの病型を分類することができる。

「呈示された症例は悪性腫瘍に伴うnodular migratory panniculitisで, 凝固・線溶の亢進が証明された。下腿の血栓性静脈炎は皮膚科でみることもまれではないし, 慢性蕁麻疹でDDが上昇するという報告もあるので, このあたりの病態生理学は, もう1回勉強しておかないといけない」。